長崎新聞　2022年1月8日　日刊一面

日　長崎新聞　昭和21年12月15日第3種郵便物認可　第26884号（日刊）

小嶺忠敏さん死去

全国高校サッカー6度優勝

76歳

冬の全国高校サッカー選手権で県立国見高を戦後最多タイとなる6度の優勝に導いた小嶺忠敏（こみね・ただとし）氏＝現長崎総合科学大付属高監督＝が7日午前4時24分、肝不全のため長崎市内の病院で死去した。76歳。通夜は8日午後5時半から随時（同7時開会）、告別式は9日正午から、いずれも南島原市深江町丁4593、南高斎儀社セレモニーホール寶玉殿で。喪主は妻の厚子（あつこ）さん。【23面に評伝、13、23面に関連記事】

終戦間近の1945年6月、南島原市（旧南高有家町）生まれ。大阪商業大卒業後の68年、母校の県立島原商業高に商業科教諭として赴任してサッカーの指導を始め、77年のインターハイで九州勢として初優勝を飾った。84年に国見高に移り、全国高校選手権で戦後最多タイとなる6度優勝。約54年間の指導者人生で100回を超える全国大会出場と17度の全国制覇を成し遂げ、高校サッカー界の名将として知られた。

元日本代表の大久保嘉人氏（39）や全国高校選手権最多得点記録を持つ平山相太氏（36）ら、日本を代表する選手や70人を超えるJリーガーを育成。その手腕からU-17、U-19の日本代表監督も務めた。

1988年に長崎県民栄誉賞第1号となり、2004年に長崎新聞文化賞、05年に文部科学大臣表彰を受けた。08年からは長崎総合科学大の特任教授を務めながら、付属高のサッカー部を指導していたが、昨年12月下旬に体調を崩して入院していた。（中島亜）

サッカー界の発展に尽力した小嶺忠敏氏。2000年度は県内国見高を率いて全国3冠を達成した＝2001年1月、東京・国立競技場

県民に大きな夢や感動

中村法道知事の話　長年にわたって本県サッカー界をけん引され、県民に大きな夢や感動を与えてくださった。これからもわが国を代表する指導者として、ますます活躍していただけるものと期待していただけに、突然の訃報に接し、大変残念な思いを抱いている。心からご冥福をお祈り申し上げたい。

国内コロナ感染6000人超

3県まん延防止　9～31日

政府は7日、新型コロナウイルス感染症対策本部会合を官邸で開き、コロナ対応の改正特別措置法に基づく「まん延防止等重点措置」を沖縄、広島、山口3県に適用すると決定した。期間は9日から31日までとする。措置適用は岸田政権下では初めて。新変異株「オミクロン株」の急拡大で、国内の新規感染者は東京都の922人など6千人を超えた。6千人を上回るのは昨年9月15日以来。

昨年12月に市中感染が初確認されてから2週間余で新たな局面に突入した。懸念される医療提供体制の逼迫（ひっぱく）をどう防ぐかが課題となる。

【2面に表層深層、2、21面に関連記事】

広島、山口両県は午後8時までの営業時間短縮と、酒類提供停止を飲食店に要請すると決定。沖縄県は認証店に限り午後8時まで酒類提供を認めるとし、対応が割れた。

都市部でも感染は拡大しており、東京都は飲食店の人数制限を厳しくする方針を決定。大阪府は独自基準に基づく警戒水準を引き上げた。ただ山際大志郎経済再生担当相は国会への報告で、いずれも現時点での措置適用に否定的見解を示した。

岸田文雄首相は対策本部会合で「3県の感染拡大に早急に対応する必要がある」と強調。全国の状況を受け「各都道府県と密接に連携し、高い警戒感を持って対応に当たってほしい」と指示した。

政府は昨夏に医療人材不足を招いた反省を踏まえ、第5波ピーク時の3割増となる約3万7千人が入院できる体制を構築。第5波当時にはなかった飲み薬も活用し、早期治療を徹底する構えだ。

まん延防止措置に関し、沖縄県は全域を対象に適用。山口県は米軍岩国基地を抱える岩国市と隣接する和木町、広島県は岩国基地に近い大竹市や廿日市市、広島市を含む10市3町で実施する。

ワクチン副反応に不安

断れぬ雰囲気　接種後異変

県内　30代病院事務女性

昨年3月、病院事務として働くハルミ（仮名、30代）＝東彼波佐見町在住＝の職場に、新型コロナワクチンの接種希望を募る名簿が回ってきた。医療従事者を対象に県内でのワクチン接種が始まったばかり。まだ情報が少なく、漠然と不安もあったが、申し込んだ。事務員でも日常的に患者と接する機会はある。「受けない」と言いにくい雰囲気を感じた。

接種直前まで迷ったが、「今キャンセルすれば多くの人に迷惑を掛けると思い直した。接種後、座って待機していると急に全身が熱くなり、意識がもうろうとした。すぐに収まったが、気分はすぐれない。帰宅後も全身がだるく、吐き気と左背部の痛みに襲われた。翌日、職場の病院を受診。医師には「副反応だろうが、対症療法しかない」と薬を処方された。

2日後、会話していた夫に「口の動きが変だ」と指摘された。鏡で自分の顔を見ると、左側だけ口角が下がっていた。「やっぱりおかしい」。再び病院を受診したが、原因は分からないままだった。

＝敬称略＝（六倉大輔）

新型コロナウイルスのワクチンには発症や重症化を抑える効果がある一方、一部、副反応と思われる症状が現れる人もいる。接種直後から〝異変〟に苦しむ県内の女性の姿や、専門家の見解、副反応の相談・医療体制を取材した。

【15面の特集に続く】

長崎新聞
1月8日（土）大安
（旧暦12月6日）
総合案内（095）844-2111　事業部（095）844-5261
報道部（095）846-9240　販売部（095）844-7703
地域ソリューション部（095）844-4874　開発センター（095）844-7733
佐世保編集（0956）22-9145
発行所　長崎新聞社
長崎市茂里町3-1　〒852-8601

県産紙宣言。

きょうの紙面

ファクターX 腸内細菌か　2面
対談 音楽通じ町づくり　11面

長崎初 高校生Jリーガー　14面
認知症 2050年に3倍へ　21面

新型コロナ 県内の感染状況
＜レベル1　注意報発令＞
7日午後3時50分現在・累計

陽性者	6,188人（+29）
死者	73人（0）
検査数	206,998人（+485）

入院28人　＝6日現在
（　）内は前日比　※県医療政策課など調べ

◆小　説　4面
◆おくやみ　5面
◆囲碁将棋　6面
◆映画案内　19面